

# ゴンちゃん モンちゃん

Vol. 4 平成12年10月 3日発行



## 里山エコスクールin中山の森 ～里山林で学ぶ自然と環境と人の知恵～

この事業は(社)国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金」の助成を受けて行っています。



### 第4回里山エコスクールの概要

#### 森の昼と夜

森の中には一見しては判らないけれどたくさんの生きものがすんでいます。昼間でも人前に出て堂々としている動物もまれにいますが、注意深く探さないと見つかりません。今回のエコスクールでは森の生きもの探しと題して昼間と夜の生きものの活動の様子を見たり、森で聞こえる音探しをしました。夏休みを利用して、青少年公園での宿泊プログラムは、竹の食器づくりや竹工作による音あそびなども含めて、盛りだくさんの体験でした。



開始では食器づくり。2日間食事で使う器とハシを、のこやナイフを使って思い思いに作りました。初日のプログラムは森の生きもの探し。ゲストの前澤勝典さん(キープフォレストーズスクール)のガイドで公園散策路脇の樹林地に入り、地面に手を入れてモグラやヒミズの道を探したり、地面に落ちている食べあとやふん、抜け殻などを見つけて歩きました。観察の仕方を覚えて羽や死骸などを拾って、はしゃいでいる姿も見かけるなど、生きものに慣れた様子。色々集めたものでどんな生きものがいたのかを話し合い、まとめにしました。

夕食のあと、午後7時からはいよいよ夜の森の探検。懐中電灯に長靴、と備えをして水辺の夜の生き物の観察をしました。池で泳ぐスジエビやメダカ、カワヨシノボリなどを見つけてはしゃぎ、前澤さんの仕掛けに入ったニホンイシガメに喜んだりしていました。さらに各班で場所を変えて夜の森の音探し。池や小川などに近い水辺の森や静かな森の中、街の夜景が見通せる尾根部など、それぞれの場所で色々な音を記録、何の音なのかを話し合いました。



翌朝は夜訪れた場所で耳をすまして音探し。前夜に鳴いていた虫の代わりに鳥のさえずりが聞こえたり人の声も。風の音も絶え、代わりに車や色々な音が伝わってきて、同じ場所ながら、聞こえる物音のちがいに感心しました。

前日に引き続いて猛暑の中、音探しから帰って、最後のプログラムは竹の音具づくり、ゲストの樋口一成さん(愛知教育大学)開発のユニークな音具で、各班即興の振り付け入りパフォーマンスでコンサートを楽しみました。足に掛けたひもを交互に張りながら、小さな角棒を回し、カラカラと音をリズムカルに立てて遊びました。